

News Release

報道関係 各位

2025年9月25日

【イベント開催報告】

青年技術士支援委員会

「本質を見抜く”問い”～技術者のための課題設定入門～」 対面開催にて大盛況で終了！

公益社団法人日本技術士会 青年技術士支援委員会（委員長：森 祐真）は、9月20日（土）に機械振興会館（東京都港区芝公園3丁目5-8）にて、技術士のコンピテンシー（問題解決・コミュニケーション）の向上を目的としたイベントを開催しました。本イベントでは、誰も答えを持たない中から**問題の真因の特定**や**適切な課題設定**を促すための「問い」に焦点を当てました。講義や個人ワーク、グループワークを通じて、参加者は「問い」の立て方について具体的なステップを学びました。当日は45歳以下の技術士・技術士補・修習技術者27名が集まり、盛況のうちに終了しました。

イベント詳細

本イベントでは、価値創造の起点となる「本質を見抜く問いの力」を養うことを目標に、「問い」を「①知る」、「②デザインする」、「③使う」、という流れで進行了。個人・グループワークでは、「技術系企業の若手技術者育成委員会のメンバー」という立場を設定し、「AI・DXで競争力を強化せよ！」という漠然とした指令を題材として、まず「問い」を重ねることで解くべき課題を具体化。さらに、その課題を議論する会議で参加者の本質的な意見を引き出すための「問い」そのものをデザインし、実際の会議の中での効果を体験をしました。

「①知る」パートでは、As-Is/To-Beモデルを課題設定の基本モデルとし、「問い」がいかに私たちの視点を変え、設定する目標をより本質的なものへと導くかを解説しました。また、そのために必要な、物事を率直に捉える思考法や、あえて批判的に見る思考法などについても学習しました。

続く「②デザインする」パートでは、会議をデザインする演習を行いました。最初に、曖昧な問題を課題（解くべき問題）として定義する6つのステップを学び、課題設定の手順について理解を深めました。次に、グループごとに設定した課題を細分化し、会議の参加者に「何をイメージ・体験してほしいか」を具体的に言語化しました。その上で、議論を深め、本質的な意見を引き出すための「問い」をデザインしました。

最後の「③使う」パートでは、各グループがデザインした会議を他のグループに体験してもらい、作成した「問い」の有効性を評価し、フィードバックを行いました。

参加者からは、「ワークを通じて、どのような問いが良いか実感できた。」「問いの捉え方に加え、課題や会議設定の方法についてもフレームワーク化を意識したい。」といった声が寄せられました。



講義の様子



グループワークの様子



集合写真

【本イベントに関するお問い合わせ】

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会 委員長 森 祐真

委員会内広報グループ：山本直樹 E-mail: pr@peyec.jp ※取材の際は左記までお問い合わせください。

公益社団法人 日本技術士会 青年技術士支援委員会とは？

公益社団法人 日本技術士会は技術士制度の普及・啓発に取り組んでいる唯一の全国組織です。当会は、日本技術士会内に設けられた委員会組織で、45歳以下の技術士、技術士補、修習技術者から構成され、若手技術士に向けた研鑽事業の企画・実施・支援をしています。

技術士
仲間を
作ろう！